

令和4年度 指定管理者年度評価シート

1 公の施設の基本情報

施設名称	千葉市中央いきいきプラザ 千葉市花見川いきいきプラザ 千葉市稲毛いきいきプラザ 千葉市若葉いきいきプラザ 千葉市緑いきいきプラザ 千葉市美浜いきいきプラザ	千葉市蘇我いきいきセンター 千葉市花見川いきいきセンター 千葉市さつきが丘いきいきセンター 千葉市あやめ台いきいきセンター 千葉市大宮いきいきセンター 千葉市都賀いきいきセンター 千葉市越智いきいきセンター 千葉市土気いきいきセンター 千葉市真砂いきいきセンター
条例上の設置目的	<ul style="list-style-type: none">● 千葉市老人福祉センター設置管理条例(昭和59年千葉市条例第20号) 第1条で設置する老人福祉センター● 千葉市いきいきセンター設置管理条例(平成14年千葉市条例第14号) 第1条で設置するいきいきセンター	
ビジョン (施設の目的・目指すべき方向性)	<ul style="list-style-type: none">● 高齢者の健康の増進、教養の向上、世代間交流等の機会を提供することにより、高齢者が健康で生きがいのある生活を送ることができる地域社会を構築していく。このことを通じて、高齢者ができる限り住み慣れた地域で自立した生活が送れるよう、介護予防分野において支援を行う。	
ミッション (施設の社会的使命や役割)	<ul style="list-style-type: none">● 高齢者が学習意欲を發揮し、地域社会への参画意識を持てるような機会を提供していく。● 高齢者の健康づくりや介護予防の場を提供していく。	
制度導入により見込まれる効果	市民サービスの向上により、さらに多くの高齢者に施設を利用してもらう	
成果指標※	① 施設利用者数 ② 利用者アンケートによる利用者満足度	
数値目標※	① 令和元年度利用者数を基準とし、千葉市の高齢者人口の伸び率を乗じた人数以上 ② 満足度80%以上	
新型コロナウイルスの影響	<ul style="list-style-type: none">● 令和4年6月10日まで部屋の定員を半分にして各種事業を実施。● カラオケ・合唱・スポーツ吹矢は、令和5年3月13日までの間を利用制限。	
所管課	保健福祉局高齢障害部高齢福祉課	

2 指定管理者の基本情報

指定管理者名	社会福祉法人 千葉市社会福祉協議会 (旧：千葉市社会福祉事業団)
構成団体 (共同事業体の場合)	
主たる事業所の所在地	千葉市中央区千葉寺町1208番地2
指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日 (5年)
選定方法	非公募
非公募理由	平成23年度に実施した外郭団体の事務事業の見直しの結果を踏まえ、いきいきプラザ及びいきいきセンターのような安定的なサービス供給が求められる施設の指定管理については、公募によらない方法により、外郭団体に行わせるべきサービスとして整理され、平成24年度に各条例を改正し、公募によらない方法により指定管理を行うこととなった。
管理運営費の財源	指定管理料

3 管理運営の成果・実績

(1) 施設利用者数

施設名	数値目標(※1)	R4年度実績	達成率	評価
千葉市中央いきいきプラザ	58,132人	29,142人	50.1%	評価項目から除外します。
千葉市花見川いきいきプラザ	68,553人	30,695人	44.8%	
千葉市稲毛いきいきプラザ	69,383人	55,952人	80.6%	
千葉市若葉いきいきプラザ	82,316人	48,836人	59.3%	
千葉市緑いきいきプラザ	65,849人	46,068人	70.0%	
千葉市美浜いきいきプラザ	118,197人	65,667人	55.6%	
千葉市蘇我いきいきセンター	22,156人	15,008人	67.7%	
千葉市花見川いきいきセンター	31,958人	15,786人	49.4%	
千葉市さつきが丘いきいきセンター	19,367人	16,752人	86.5%	
千葉市あやめ台いきいきセンター	20,411人	18,927人	92.7%	
千葉市大宮いきいきセンター	10,398人	9,768人	93.9%	
千葉市都賀いきいきセンター	22,996人	14,396人	62.6%	
千葉市越智いきいきセンター	12,651人	10,675人	84.4%	
千葉市土気いきいきセンター	20,070人	11,731人	58.5%	
千葉市真砂いきいきセンター	18,761人	13,295人	70.9%	
合計	641,199人	402,698人	62.8%	

※1 R5年3月末60歳以上人口311,426人÷R1年3月末全市60歳以上人口300,871人=103.5%
各施設R1年度実績×103.5%=数値目標

(2) 利用者アンケートによる満足度

施設名	数値目標	R4年度実績(※2)	達成率	評価
千葉市中央いきいきプラザ		80.1%	100.1%	C
千葉市花見川いきいきプラザ		81.0%	101.2%	C
千葉市稲毛いきいきプラザ		82.0%	102.4%	C
千葉市若葉いきいきプラザ		76.4%	95.5%	C
千葉市緑いきいきプラザ		83.8%	104.7%	C
千葉市美浜いきいきプラザ		77.8%	97.3%	C
千葉市蘇我いきいきセンター		79.3%	99.1%	C
千葉市花見川いきいきセンター	80%	82.5%	103.1%	C
千葉市さつきが丘いきいきセンター		87.6%	109.5%	B
千葉市あやめ台いきいきセンター		92.0%	115.0%	B
千葉市大宮いきいきセンター		87.6%	109.5%	B
千葉市都賀いきいきセンター		82.6%	103.2%	C
千葉市越智いきいきセンター		91.2%	114.0%	B
千葉市土気いきいきセンター		78.0%	97.5%	C
千葉市真砂いきいきセンター		79.5%	99.4%	C
合計		81.1%	101.4%	C

※2 算定方法は、6(1)アンケート質問8(6)の(満足+ほぼ満足)÷回答者数で算定

【評価の内容】※数値はいずれも原則であり、特殊な事情がある場合は当該事情も含め、総合的に判断する。

A：成果指標が市設定の数値目標の120%以上(ただし、指定管理者設定の目標に達していない場合はBとする。)

B：成果指標が市設定の数値目標の105%以上120%未満(ただし、指定管理者設定の目標に達していない場合はCとする。)

C：成果指標が市設定の数値目標の85%以上105%未満

D：成果指標が市設定の数値目標の60%以上85%未満

4 収支状況

(1) 収入

(単位：千円)

費目	R4年度		[参考] R3年度	計画実績差異		主な要因
	分類	金額		分類	金額	
指定管理料	実績	631,634	613,016	実績－計画	△ 20,119	以下①のとおり 予算編成時に精査したため。
	計画	651,753	647,603	計画－提案	△ 14,915	
	提案	666,668	669,996			
利用料金収入	実績	0	0	実績－計画	0	
	計画	0	0	計画－提案	0	
	提案	0	0			
その他収入	実績	16,466	12,828	実績－計画	16,466	以下②のとおり
	計画	0	0	計画－提案	0	
	提案	0	0			
合計	実績	648,100	625,844	実績－計画	△ 3,653	
	計画	651,753	647,603	計画－提案	△ 14,915	
	提案	666,668	669,996			

(2) 支出

(単位：千円)

費目	R4年度		[参考] R3年度	計画実績差異		主な要因
	分類	金額		分類	金額	
人件費	実績	432,688	422,347	実績－計画	△ 4,464	職員の人事異動による 予算編成時に精査したため。
	計画	437,152	437,424	計画－提案	△ 16,117	
	提案	453,269	442,249			
事業費	実績	111,491	88,300	実績－計画	12,082	以下③のとおり 予算編成時に精査したため。
	計画	99,409	97,501	計画－提案	△ 1,751	
	提案	101,160	117,319			
事務費 (委託料を除く)	実績	44,845	43,691	実績－計画	△ 2,566	予算編成時に精査したため。
	計画	47,411	43,005	計画－提案	△ 7,352	
	提案	54,763	51,991			
委託費	実績	54,720	55,485	実績－計画	△ 1,319	予算編成時に精査したため。
	計画	56,039	52,387	計画－提案	4,099	
	提案	51,940	52,023			
その他事業費	実績	4,356	10,846	実績－計画	△ 7,386	職員の人事異動による
	計画	11,742	15,767	計画－提案	6,206	
	提案	5,536	15,384			
本社費・共通費	実績	0	0	実績－計画	0	
	計画	0	0	計画－提案	0	
	提案	0	0			
合計	実績	648,100	620,669	実績－計画	△ 3,653	
	計画	651,753	646,084	計画－提案	△ 14,915	
	提案	666,668	678,966			

※「計画」とは、事業年度ごとの事業計画書で定めた計画額を示す。

「提案」とは、選定時の提案書、事業計画書で指定管理者が提案した見積額を示す。

①収入の「実績－計画△20,119」の差額の主な要因について

事務費（福利厚生費）と人件費の残額（12,475千円）及び退職引当金（施設7,501千円、事務局143千円）を市に返還したため。

②その他収入16,466千円について

内訳は拠点区分間繰入金収入7,435千円と千葉県指定管理者光熱水費支援金9,031千円。拠点区分間繰入金収入は、社会福祉協議会の人事異動に伴い、本指定管理業務外から繰入れた額。千葉県指定管理者光熱費支援金とは指定管理者の経営努力では回避できないエネルギー価格の高騰に伴う電気・ガス料金の上昇により、光熱費に不足が見込まれたため、指定管理者に対し支援金を支給したものの。

③支出の事業費「実績－計画12,082」の差額の主な要因について

水道光熱費 計画43,480千円 実績59,148千円 → 燃料費高騰による光熱費増加のため

5 管理運営状況の評価

(1) 管理運営による成果・実績（成果指標の目標達成状況）

評価項目	市の評価	特記事項
施設利用者数	—	新型コロナの影響により減じており評価項目から除外します。
利用者アンケートによる満足度	C	3 (2) 達成率101.4%

【評価の内容】※数値はいずれも原則であり、特殊な事情がある場合は当該事情も含め、総合的に判断する。

A：成果指標が市設定の数値目標の120%以上（ただし、指定管理者設定の目標に達していない場合はBとする。）

B：成果指標が市設定の数値目標の105%以上120%未満（ただし、指定管理者設定の目標に達していない場合はCとする。）

C：成果指標が市設定の数値目標の85%以上105%未満

D：成果指標が市設定の数値目標の60%以上85%未満

E：成果指標が市設定の数値目標の60%未満

(2) 市の施設管理経費縮減への寄与

評価項目	市の評価	特記事項
市の指定管理料収入実績／提案額の削減	B	4(1)実績631,634千円 / 提案額666,668千円 = 94.74%

【評価の内容】※数値はいずれも原則であり、特殊な事情がある場合は当該事情も含め、総合的に判断する。

A：選定時の提案額から10%以上の削減

B：選定時の提案額から5%以上10%未満の削減

C：選定時の提案額と同額又は5%未満の削減

(D・E：選定時の提案額を超える支出を行うことはないため、該当なし)

—：対象外（市の指定管理料支出がない。）

(4) 保健福祉局指定管理者選定評価委員会意見を踏まえた対応

意見の内容	意見対象年度	対応・改善の内容
<p>ビジョンのうち地域包括ケアシステムについては、わかりやすい表現を検討いただきたい。</p>	<p>令和4年度</p>	<p>介護予防分野において支援を行う内容に修正した。</p> <p>【令和3年度】 高齢化の進展を見据え、できる限り住み慣れた地域で高齢者が自立した生活が送れるよう、「地域包括ケアシステム」の構築・強化を図っていく。</p> <p>【令和4年度】 このことを通じて、高齢者ができる限り住み慣れた地域で自立した生活が送れるよう、介護予防分野において支援を行う。</p>
<p>市と社会福祉協議会の決算の整合性が確認、把握できるような決算書の検討をしていただきたい。</p>		<p>令和3年度決算については、社会福祉協議会と社会福祉事業団の合併に伴う退職引当金の見直しにより整合性が把握が難しいものとなった。今後は特異な事情が生じた際にも整合性のとれる資料作成に留意していきたい。令和4年度に関して、令和3年度のような特異な事案がないことから、例年通り作成している。</p>
<p>新規利用者を拡大できるよう、地域ニーズ等を踏まえた企画の実施を検討いただきたい。</p>		<p>・コロナ禍においてイベント等も中止になり、地域での関わるも希薄になったため、地域の人たちと理解をより深めたい、というニーズがあったため、稲毛・花見川の2区で地域多世代交流事業を実施した。地域に居住している高齢者や近隣住民の方、障害のある方も含め、レクリエーションやゲーム、ワークショップ、コンサート等で同じ場面を共有し参加された方の交流を深めるとともに新規利用者の獲得を目指した。</p> <p>・地区部会よりコロナ過が収束しつつあるので、体操教室や相談などを実施してほしい旨の依頼があり、地区部会と協力しながら、いきいきサロン等に看護師や介護予防指導士等の専門職を派遣して、健康測定や健康相談、ストレッチ体操や筋力アップトレーニング等を実施し、新規利用者を獲得した。</p>
<p>広報については、ツイッター等々に取り組みされているが、さらに多くの人に周知できるような工夫を継続して検討いただきたい。</p>		<p>・ホームページを一新して閲覧しやすくするとともに、講座やイベント等の新着情報を確認しやすくした。</p> <p>・LINEを使って事業の情報提供や連絡等を実施するための検討を行い、令和5年度から花見川いきいきプラザのボディケアスクール利用者を対象として試行を開始している。</p>

6 利用者ニーズ・満足度等の把握

(1) 指定管理者が行ったアンケート調査

調査方法 令和4年10月1日～31日の間、来館者全員にアンケート用紙配布。無記名にて記入の上、アンケート箱設置による回収。

回答者数 6,051人

令和4年度アンケート結果

								(人)	
回答者個人属性								回答者数合計	
居住区								6,051	
中央区	花見川区	稲毛区	若葉区	緑区	美浜区	市外	無回答	(人)	
771	922	935	920	938	1,336	40	189		
性別								(人)	
男性	女性	無回答							
1,448	4,032	571							
年代								(人)	
60～64歳	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85歳～	無回答			
159	520	1,548	1,799	1,357	490	178			
世帯構成								(人)	
ひとり暮らし	60歳以上のみの世帯	その他	無回答						
1,164	2,438	1,257	1,192						
質問1 ご利用いただいている内容は次のうちどれですか。(複数回答可)								(人)	
講座	1,887	同好会活動	2797	ヘルストロン・マッサージ機	165				
講演会	177	体操教室	742	テレビ視聴	24				
機能回復訓練	423	入浴・シャワー	111	新聞・雑誌閲覧	52				
生きがい活動	831	カラオケ	34	その他	201				
世代間交流	29	囲碁・将棋	129	無回答	193				
生活・健康相談	50	トレーニング機器	37						
質問2 ご利用いただいている目的は次のうちのどれですか。(複数回答可)								(人)	
介護予防	体力増進	心配ごとの相談	友人との交流	生きがいづくり					
902	2,443	37	1,611	1,314					
教養・知識の習得	趣味・レクリエーション	入浴	その他	無回答					
1,272	1,989	67	63	217					
質問3 どのくらいの頻度でご利用いただいていますか。								(人)	
ほぼ毎日	週4～5日	週2～3日	週1回	月1～2回	年に数回	無回答			
0.9%	2.6%	13.9%	23.3%	56.4%	0.7%	2.3%			
52人	157人	840人	1,409人	3,411人	43人	139人			
質問4 いつからご利用されていますか。								(人)	
今年から	1年前から	2年前から	3年前から	4年前から	5年以上前から	無回答			
17.9%	6.5%	6.1%	8.3%	8.2%	48.4%	4.5%			
1,084人	393人	370人	505人	498人	2,926人	275人			
質問5 利用開始時に介護認定を受けていましたか。受けていた場合は、判定結果をご回答ください。								(人)	
受けてない	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	無回答	合計
5,537	67	20	12	9	2	0	2	402	6,051
質問6 現在、介護認定を受けていますか。受けている場合は、判定結果をご回答ください。								(人)	
受けてない	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	無回答	合計
4,965	80	29	21	10	2	1	1	942	6,051
質問7 主催事業にご参加いただく際、何からお知りになりますか。(複数回答可)								(人)	
市政だより	いきいきプラザだより	ホームページ	館内掲示	自治会等の回覧	知人の紹介	その他	無回答		
3,647	1,072	66	717	88	990	103	429		

質問8 運営状況について、感想をお聞かせ下さい。

設問	満足	ほぼ満足	普通	やや不満	不満	無回答
(1)設備・備品類の配備状況について	24.2% 1,467人	46.7% 2,826人	25.4% 1,539人	1.1% 69人	0.1% 9人	2.3% 141人
(2)施設的环境(衛生面・安全性)はいかがですか	26.5% 1,604人	46.0% 2,786人	24.5% 1,481人	0.8% 50人	0.1% 9人	2.0% 121人
(3)職員の対応はいかがですか。	41.2% 2,459人	40.8% 2,436人	17.5% 1,045人	0.1% 4人	0.1% 5人	0.3% 15人
(4)施設や事業の案内、お知らせは充分にできていますか。	21.7% 1,312人	39.7% 2,400人	33.6% 2,033人	1.8% 109人	0.2% 11人	3.1% 186人
(5)ご利用いただいて介護予防になると感じられますか。	35.6% 2,153人	42.5% 2,570人	13.0% 785人	0.8% 49人	1.3% 80人	6.8% 414人
(6)全体としてどのように感じますか。	27.4% 1,660人	51.5% 3,118人	17.9% 1,082人	0.4% 25人	0.0% 3人	2.7% 163人

※(4)の回答は、「充分、ほぼ充分、普通、やや不十分、不十分、無回答」から選択

※(5)の回答は、「そう思う、まあまあそう思う、普通、やや思わない、思わない、無回答」から選択

※成果指標の利用者アンケートによる満足度は(6)の(満足+ほぼ満足)÷回答者数で算定 81.1%

※各施設ごとのアンケート結果については、「参考資料の1-4」に掲載。

(2) 市・指定管理者に寄せられた主な意見・苦情と対応

苦情については、指定管理者内部で概ね対応がなされており、市へ寄せられた苦情は年間2件と少なかった。「市に寄せられた主な意見・苦情」の欄には一例を記載しています。

市に寄せられた主な意見・苦情	市の対応
自転車置き場に10台も停まっているので、整理したほうがよい。	20台ほどの駐輪スペースを設けていますが、閉門時には駐輪場は空になっており放置自転車はない状況となっています。駐輪状況は今後とも注視してまいります。
指定管理者に寄せられた主な意見・苦情	指定管理者
ヘルストロンの間隔をあけるのではなく、シールドを付けて全席座れるようにしてほしい。	在庫のシールドを利用し、ヘルストロンの椅子の間にシールドを取り付けました。
浴室の更衣室に髪や湿布が落ちていて不衛生。紙モップを置いて欲しい。	定期巡回時に確認・清掃は実施していたが、ごみ箱と紙モップを設置することで利用者にもご協力いただきながら、清潔に浴室を使用できるようにした。
講師の声が聴こえにくい。(マスク着用も含めて)	ヘッドセットワイヤレスマイクを導入し、講演会や体操教室等で希望される講師に貸出対応しました。対応後は「声が聞こえるようになった」と改善の評価をいただきました。
同好会の部屋使用で予定外の日程を予約する時に、希望日の6日前からの予約開始という条件が納得いかない。	特定団体の独占という不公平感をなくし、他の利用希望団体にも配慮したルールであり、サービス提供マニュアルに沿って事業運営をしていることを説明してご理解をいただきました。
ここに来て幸せを感じました。みなさんのおかげです。	回答・掲示の希望なし。ありがたいご意見を頂きました。
研修室の後方にある机は、廊下に出してほしい。卓球の球が机の下にいて、取りづらい。	“消防法で避難経路の確保”とある旨をお伝えし、机の下にボールが行かないように、“卓球フェンス”を置き対応した。
いきいき体操に応募したが応募者が多く落選してしまった。参加できるようにしてほしい。	いきいき体操は参加者が参加者を呼び、抽選で決定している状況となっています。体操機会が無い方を優先的に抽選するなど体操機会の公平性を考えて対応しましたが、根本的な解決にはならないため、参加定員を大幅に増やすとともに、ビデオを使ったボディケアスクールを開催しました。

7 総括

(1) 指定管理者による自己評価

ア 全体

総括 評価	C	所見	<ul style="list-style-type: none">●年度当初は、部屋の人数制限等もあり高齢者福祉講座やボディケアスクール、生きがい活動支援通所事業の定員を通常より減らし、時間も短縮して実施し、6月の部屋の人数制限緩和と共に定員や活動時間をコロナ禍前に戻して実施した。●生きがい活動支援通所事業では、利用者の利便性を図るとともに新規利用者の獲得を目指し、1日コースの他に午前、午後のみ参加を選択できる半日コースを設定し次年度に向け試行した。また、曜日により利用者の減少が見られた施設では、出張生きがい活動支援通所事業を午前の半日コースから開始した。●地域多世代交流を2区で展開し、地域の子どもから大人、高齢者、障害児・者等が一堂に会してレクリエーションやゲーム、コンサート等で交流を図った。いきいきプラザ・センターの認知度の向上や、介護予防施設としてのアピールを行い、新規利用者や若い高齢者の獲得に繋がられた。●SNS（ツイッター）の積極的な活用と、関係機関へのいきいきプラザ・センターパンフレットの配布、イベントや出張教室等の独自チラシを作成して、見せる広報を意識しながら、地域の会議参加時に出席者へ配布を依頼した。●各会議等に積極的に参加をして、新たな機関や地域の町内自治会等と協力関係を構築し、多数の新規団体への出張教室を開拓した。●社会福祉協議会地区部会のふれあい・いきいきサロン等に専門職（介護予防指導士・看護師等）を派遣し、普段いきいきプラザ・センターに来館できない地域の高齢者の方に、ストレッチ体操や筋力アップトレーニング等の体操や骨密度、脳年齢、血管年齢が測れる機器を使用しての測定会、健康相談等を実施するとともに、施設の活動状況やイベント等の紹介をした。●効果測定シートを作成して、今後の体操内容や活動内容に反映するため試行した。ボディケアスクールでは体力測定（握力・長座体前屈）、生きがい活動支援通所事業では体力測定（握力・長座体前屈・30秒椅子立ち上がり・TUG）及び心身の機能（25項目の基本チェックリスト使用）を評価した。
----------	---	----	--

イ 施設別

施設名	総括評価	所見
中央いきいき プラザ	C	<ul style="list-style-type: none"> ● コロナウィルスのため中止していた「中央いきいきプラザフェスティバル」を3年ぶりに開催した。歌唱やカラオケは制限があり実施できなかったが、講座や同好会、近隣の中学校吹奏楽部や高等学校ダンス部にも出演していただき、久しぶりのフェスティバルを盛り上げてもらった。事前宣伝として、市政だより、ポスターだけでなく、地域新聞(千葉中央版・蘇我版・若葉版・千葉北版・稲毛版・美浜版・幕張版)に6区のいきいきフェスティバルの記事が掲載され、いきいきプラザの広報につながった。 ● あんしんケアセンター松ヶ丘と共催で、未開拓地域での測定会を初めて実施した。また、千葉県生涯大学の授業の講師として依頼を受け、「家庭でできるストレッチ体操」を介護予防指導士が行った。 ● アリオ蘇我で2日間にわたり行われた中央区健康課主催の健康イベントに共同で「骨密度測定」を実施し、市民に対し健康意識の普及と介護予防の啓発を行った。 ● 高齢者の心身の不安や悩みに寄り添う健康相談や生活相談を継続的に行った。 ● 松ヶ丘地区全域の病院、幼稚園、小中学校、高等学校、町内自治会等43の関係機関が集まる松ヶ丘円卓会議に出席した。また、近隣地域にある40の自治会の延べ300枚の回覧板に、いきいきだよりやイベント等参加者募集のチラシを挟んでもらうことで施設の広報を行った。 ● 中央区健康課の協力の下、「千葉市いきいき体操」を開始した。DVDを見ながら誰でも簡単にできる体操を毎週行うことで、高齢者の健康維持を推進した。 ● 男性利用者が興味を引く「日本の歴史講座」を前期8回、後期8回、合計16回開講した。男性参加率は、前期75.9%、後期82.4%であった。 ● 高齢者福祉講座「はじめようボランティア講座」終了後、ボランティア同好会が立ち上がり、誰でも集える場の「地域カフェ」を開催した。 ● 近隣大学の看護実習や社会福祉士実習を受入れ、高齢者の健康保持や地域生活支援に関する学習機会を提供した。

- こてはし温水プール複合施設の大規模修繕による休館の間、代替施設を確保し、生活・健康相談、ボディケアスクール、高齢者講演会、世代間交流、ゲートボール場の開放、生きがい活動支援通所事業を継続して実施した。また、同好会活動が継続できるよう犢橋公民館と連携を図るとともに、プラザ開館後もチラシの掲示や配架、共催で高齢者講演会を実施した。高齢者福祉講座の実施を見合わせたが、9月より再開した。休館中の代替として高齢者講演会を、計画した6回から45回に拡充し、延べ612人が参加した。人数制限がある中、各事業多くの方に参加していただけるよう2部制や2、3カ月単位の短期で開催する等対応した。
- 昨年度より引き続き、感染症対策として看護師が窓口に立ち、利用者の検温、手指消毒を実施しながら対話して健康状態の把握に努めた。休館中は電話により、積極的に利用者の状況を把握し相談に応じた。
- 自主事業としてボディケアスクールを担当している理学療法士を撮影したDVD（ミニボディケアスクール）を上映し、ボディケアスクールに落選、補欠の方に参加の機会を提供した。また、ボディケアスクールが未体験の方にも参加していただくよう促し、ボディケアスクールを知っていただく機会とした。
- シニアリーダー体操活動が継続できるよう活動の場を設置し活動支援を行った。
- 地域交流として、3年ぶりにいきいきプラザフェスティバルを開催し、作品展示・学習発表を行った他、犢橋高校演劇部による演劇鑑賞会、千葉大学落語研究会による落語、その他あんしんケアセンターを通じて近隣公民館等地域で活動している団体による発表の機会を提供した。夏休み映画上映会、世代間交流として寄せ植えやモルック体験、スタンドグラス、ソーパークーピング等の体験・創作を11回実施し、プール利用者や地域住民へ参加の機会を設けた。また、パンフレットの配布等により広報活動に努めた。
- 地域多世代交流として、クリスマスに「ボッチャ」「モルック」「ワークショップ」やあんしんケアセンターによる「認知症声掛け訓練」などを行うと共に、千葉北高校吹奏楽部によるコンサートを含めて実施した。生きがい活動支援通所事業利用者が職員と協働して運営に参加する等社会参加の機会を提供した。
- こてはし台・さつきが丘あんしんケアセンターによる出張相談会を継続し、介護・福祉・医療等多岐にわたる相談援助を実施した。
- 介護等体験、看護実習生の受け入れをし、高齢者の健康保持や地域生活支援に関する学習機会を提供した。
- ツイッターを活用し、事業案内、活動報告を随時公開した。要望に応じて登録を支援し、利用者が情報を得る機会を増加させた。
- いきいきプラザの空き部屋及びゲートボール場を活用し、時間内いつでもどなたでも参加できるよう「はなもるちゃ」（ボッチャ・モルック）を行い、地域交流の場とした。

- 新規取組として「シニアリーダー体操」を開始して、新たな利用者の確保含めて高齢者の介護予防における身体機能低下予防などに繋がる取組の拡充を図った。また、稲毛区シニアリーダーの活動の場として協力を繋げられた。
- 「生きがい活動支援通所事業」の後期コースにおいて、試行的に利用時間に1日・午前・午後の選択制を導入し、導入前と比較して利用者増が図れたこと、また、利用者のニーズを把握することで本事業の今後の運営に繋げることが出来た。
- 「生きがい活動支援通所事業」において、新規利用者の確保含めて多くの高齢者の方への介護予防に繋げるために、「生きがい活動支援通所事業体験会」（年2回）で一般応募とは別に地域で高齢者と接点のある民生委員に参加・体験を行い、地域の高齢者に対して事業案内の協力と新規利用者の確保に繋がった。
- 同好会への活動支援では、高齢者福祉講座終了後や同好会体験会を実施して新規同好会の立ち上げや新規会員の加入に繋がった。
- 男性の利用参加の向上を図るために「特に男性向けの筋力アップ体操教室」（年2回）や新規で「珈琲のドリップ講座」「走らないサッカー」を実施し、「走らないサッカー」では60%の男性の参加を得た。年間事業全体として僅かではあるが男性の利用参加率の向上に繋がった。
- 多世代交流として、近隣の高校生や保育園児、ポッチャ協会、生きがい活動利用者の有志、あんしんケアセンターなどの参加協力の中、「粋いき夏まつり」を実施した。高校生の演奏や大道芸、保育園児の踊り、ポッチャ体験、生きがい活動利用者有志の昔遊び、あんしんケアセンターの認知症SOS声掛けでは若い親子世代を含めたスタンプラリーなど、高齢・障害・児童が交流して住民同士は相互理解する場に繋がった。また、プラザ利用者がボランティアとして活動参加され、ボランティア活動の機会に繋がられた。
- 支え合いの地域づくりを担うボランティア育成のために社会福祉協議会区事務所と連携して、「傾聴ボランティア講座」「認知症サポーター養成講座」に「人のため自分のため読み聞かせ講座」「災害ボランティア講座」の2講座を新規に実施した。また、認知症サポーター養成講座の修了者にはステップアップ講座への案内や、両講座修了者がボランティア活動に繋がるよう社会福祉協議会区ボランティアセンターと連携を図った。
- 社会福祉協議会区事務所と連携して社会福祉協議会地区部会のいきいきサロン等へ新たに10カ所出向き、体操やレクリエーション、健康測定を行い、普段、施設の利用がない地域の高齢者への健康づくりを図った。また、社会福祉協議会区事務所主催の地区部会従事者研修に参加し、事業案内や体操、レクリエーション、健康測定を行い、次年度の出張教室の新規確保に繋がった。
- 利用者含めて地域の方に起震車や消火器等の「防災体験会」を実施して災害時の備えに繋がった。
- 広報活動では、新規利用者の確保と併せて地域の高齢者と接点がある民生委員に施設情報を提供するために区内13地区の民生委員児童委員協議会新たに広報誌（いきいきだより）を毎月配布する拡充を図った。また、初めて稲毛区民まつりに社会福祉協議会区事務所と協働参加し、施設PRと脳年齢測定会を実施して広報啓発の機会拡充を図った。
- 社会福祉協議会区事務所と定期的に会議を設けて、情報共有や事業連携に努めた。
- あんしんケアセンターなど地域の関係機関との連携協力に引き続き取り組み、また、新たに生活支援コーディネーター第1層協議体主催の会議へ参加して生活支援コーディネーター第2層含めて情報共有や事業周知に努めました。

- 施設の広報として、いきいきだより・行事のチラシ等をあんしんケアセンターや地域への出張体操の際に配布した。パンフレット等は、社会福祉協議会区事務所生活支援コーディネーターにも依頼し地域へ配布した。また、若葉区民生委員理事会にも協力依頼の上、パンフレット等を地域へ配布した。高齢者講演会の案内は、地域新聞への掲載を活用して地域への広報に努めた。引き続きツイッターにて、施設の開催行事の募集・活動報告について情報発信した。
- 高齢者講演会は、事業計画を上回る15回を実施し、372人が参加した。なお、ボランティア講師を4回活用した。7月開催のシニアリーダー体操が好評のため、9月より毎月2回、シニアリーダーによる体操教室を開始した。
- 同好会活動への支援として、希望者へのコーディネートや同好会一覧の配布を行った。新規同好会立ち上げの支援や高齢者福祉講座修了者に対して、同好会活動への案内を積極的に行った。
- 屋根付きゲートボール場のある施設特性を踏まえ、千葉市ゲートボール連盟主催の千葉市総合体育大会の開催や千葉市内で活動している団体を招いてゲートボール交流対抗戦を行った。年間で延べ2,029人が利用し、前年から715人増加した。
- 地域交流として、いきいきプラザフェスティバルを3年ぶりに開催し、作品展示会・学習発表会の他、フルート演奏会や落語会「若葉いきいき寄席」等のイベントを行い、利用者と地域住民との交流を図った。
- 若葉区の健康づくりプロジェクトのひとつ「若葉区ラジオ体操区」の普及啓発に参加し、利用者とラジオ体操を行った。毎日のイベントとして定着し、延べ4,454人が参加した。
- 利用者交流支援として、「クリスマスコンサート（電子マリimba演奏）」を開催し、共通の趣味を持つ利用者の交流機会を設けた。
- 関係機関との連携として、若葉区内あんしんケアセンター、若葉区保健福祉センター高齢支援班、社会福祉協議会区事務所等、地域の高齢者支援に関わる機関との地域ケア会議に参加し、地域高齢者支援に関する事例検討や情報交換を行った。
- あんしんケアセンター千城台による「出張相談会」を毎月4回開催し、地域高齢者に対する介護・福祉に関する相談援助を行った。
- 社会福祉協議会区事務所と連携して、地域の社会福祉協議会地区部会が実施する「ふれあい・いきいきサロン」に出張し、脳トレ教室、家庭で出来る体操の紹介、骨密度等の健康測定会を実施した。また、区内の公民館へも出張の上、同様の健康測定会を実施した。
- 近隣養成校への協力として、看護実習生の受け入れを引き続き行い、地域で生活する高齢者の健康維持・加齢に伴う諸問題を学ぶ機会を設けた。

- 高齢者講演会は、高齢者が日常生活する上で有意義な高齢者福祉、地域福祉、医療などに関する専門的なテーマを取り上げた高齢者講演会の開催を地域住民や利用者ニーズに応え14回開催した。「はじめてのキャンプ」や「世界遺産と日本の世界遺産」のように、60歳代前半や男性に興味を持っていただけるような講演会を企画した。
- コロナ感染予防に留意しながら、浴室利用の人数制限を前年度より1人増やし6人とした。また、年度末にはカラオケを再開した。
- 高齢者福祉講座は、介護予防や趣味系等、多様な講座を企画した。感染予防対策として減らしていた定員を年度途中（7月）から戻した。
- 「毎日が介護予防」と題して、館内にあるウォーキングマシーンや手すりのある階段を活用して、仮想の日本一周や富士山登山を無理なく楽しんでいただけるイベントを行った。
- 同好会支援として、会員募集掲示板を誰もが目にしやすい場所に設置し新規の会員を募集した。新たに同好会が1団体、準同好会が3団体設立された。
- ホームページやツイッターを活用して、イベントの案内や募集、報告等の情報発信を行った。
- 3年ぶりの緑いきいきプラザフェスティバルを開催した。コロナ禍の影響もあり学習発表会の参加団体は少なく半日で終了したが、観覧者は多く大盛況に終わった。初の試みで「おゆみ野ふれあい館」で活動している同好会にも学習発表の声をかけ3団体の参加があった。
- 地域の皆様に「生きがい活動支援通所事業」を知っていただけるよう体験会を行った。7月以降は感染予防対策の制限解除を受け、午前午後参加の各2班体制を解消し例年どおり1日を通して実施した。シニアリーダーによる体操を実施した。
- 緑区のプラザ・センターで“緑・越智・土気共同地域カフェ”を行い、地域の皆様に憩いの場を提供した。“緑・越智・土気共同地域カフェ”では、座談ブース、ギターサロンブース、ビューティー体験ブースを設けた。
- 誉田あんしんネットワーク会議や見守りネットワーク会議士気に積極的に参加し、関係機関や民生委員と情報交換や共有をして協力体制の強化に努めた。あんしんケアセンターには講演会講師として協力していただいたり、協働で町内自治会等に出向き、測定会や体操等を行った。
- 第7次地域福祉活動計画に基づき、当協議会が目指す「生き生きと暮らせる地域をつくる」ための具体的な取り組みとして、社会福祉協議会地区部会が実施するふれあい・いきいきサロン活動等に施設職員を派遣した。

- 区内の社会福祉協議会地区部会や町内自治会、互助グループ等様々な団体・地域へ出向いて構築された人間関係からの生活相談が増加した。
- 生きがい活動支援通所事業利用者に対し、健康面から介護予防を促進するため、6か月毎の看護師との面談で健康状態や通院・服薬状況を確認し、日々の健康観察や体調への助言を積極的に実施した。
- 昨年度に引き続き、打瀬地区部会、打瀬公民館と協力し、「第2回打瀬健康フェスティバル」を開催し、いきいきプラザの資源を地域で活用した。幸町2丁目地区部会、高洲・高浜地区部会でも測定と講話、コグニサイズを組み合わせた支援を実施した。打瀬地区ではコグニサイズサークルの立ち上げに繋がった。
- 高洲・高浜地区自治会会長会の協力を得て、1,183カ所の回覧板、掲示板にいきいきだよりを掲載した。また、(株)URコミュニティの協力を得て、自治会組織の無いUR高洲第二団地にも全戸配布を行った。
- 新型コロナウイルス感染症による定員制限の緩和後、ボディケアスクールの定員を6人増加し、待機者を減らしできるだけ多くの希望者が参加できるよう改善した。
- 高齢者福祉講座は、平均1.59倍の応募があり、欠員が発生した講座も、講座の初回までに定員に達し開講することができた。
- 次世代の利用者にいきいきプラザの存在を知っていただくために、50歳代を対象とした講演会を複数回開催した。
- いきいきプラザフェスティバルの学習発表会では、発表時間に加えて、活動紹介や体験参加に使える時間を設け、同好会に対する問い合わせの増加に繋がった。
- 小学生の長期休暇とその課題（自由研究、書初め）に合わせて世代間交流を開催し、高齢者と児童が交流する機会を設けた。また、いきいきプラザフェスティバルではキッズダンス発表会を実施した。
- 社会福祉士及び看護師実習を積極的に受け入れた。看護学生は実習のほか、健康フェスティバルにもボランティアとして参加し、測定を通じて高齢者とかわる機会を設けた。
- 生きがい活動支援通所事業は、利用者が主体的に活動するため、テーブル毎のその日のリーダーの選出や、活動内容を自分で選び自分で決める方法を取り入れた。
- 生きがい活動支援通所事業の運動プログラムを見直し、運動の負荷を無理ない範囲で徐々に引き上げ、結果、筋肉量が増大した方が多くみられた。
- 社会福祉協議会区事務所との連携を深め、社会福祉協議会地区部会活動支援メニューのチラシ配布や社会福祉協議会地区部会従事者研修会での体験会開催により、地域への出張数を増加させ、社会福祉協議会地区部会活動にいきいきプラザの機能を活用した。
- 近隣の市立稲毛高校の弦楽オーケストラ部によるコンサートを企画、準備より学生とともに実施し、演奏のほか学校生活の紹介や高校生の悩みに高齢者が助言するなど高齢者と高校生が交流できた。
- 介護予防指導士によるいきいき体操教室は開催数を倍増、定員を増加し、高齢者が継続して体操できる機会を設けた。
- あんしんケアセンター高洲、社会福祉協議会区事務所、(株)URコミュニティ等、地域の高齢者支援に関わる機関と地域ケア会議を開催し、課題の共有と状況の確認を実施した。
- 高洲・高浜地区部会に対し施設見学説明会を開催した。またUR団地に対し、(株)URコミュニティと連携し、いきいきプラザ紹介や来館手順案内のDVDを放映やラジオ体操会の立ち上げ支援、測定会の開催5回を実施した。
- 認知症予防の強化のため、指導員によるコグニサイズ講演会を5回開催した。
- 利用率の低い日曜日に、高洲・高浜地区の地域運営委員会を誘致し、定例会議の場として利用していただいた。

- 相談業務の改善を実施し、生活相談・健康相談共に大幅に相談数を伸ばすことが出来た。健康相談については、生きがい活動支援通所事業参加者との人間関係構築について見直し、日々の健康チェックに今まで以上に深く関わりを持つことで、困った時に相談できる場所として定着が進み、相談を通じて地域で暮らす高齢者の不安や悩みに対し、心に寄り添った相談援助を行った。
- 事業紹介の広報を、館内掲示及びホームページ、センターだより等に掲載して、近隣町内自治会や中央老人クラブ連合会、蘇我コミュニティーセンターなどに出向き回覧をお願いした。
- 多様な分野の高齢者講演会を28回実施した。多くの利用者から麻雀を覚えてほしいという要望があり、「初心者麻雀教室」をボランティア講師協力のもと実施した。
- 多くの要望をいただいていた健康麻雀交流大会を開催した。多数の申し込みをいただき、キャンセル待ちが出るほど盛況であった。
- あんしんケアセンターと協力して、新宿公民館を拠点に活動する団体より体操講師の派遣依頼を受け、出張体操や相談を行い、地域の高齢者の介護予防を支援した。
- 自主事業のいきいき体操を実施することで、ボディケアスクールに参加できなかった方にも体操で身体を動かす機会を提供した。また、シニアリーダー体操やちばしいいきいき体操を中央区健康課と協力して開催した。
- 「蘇我いきいきセンターフェスティバル」を開催したが、当日参加・見学できなかった方達に向け、作品展示会や発表の様子をビデオに撮影し、ロビーで上映会を実施し、成果の発表の機会を作った。
- アリオ蘇我で行われた、中央区健康課主催の健康イベントに参加「血管年齢測定」を2日間行い、多くの来場者にプラザ・センターの宣伝・広報を行った。
- 蘇我コミュニティーセンター懇談会に参加し、近隣施設（郵便局等）・あんしんケアセンター・民生委員・町内自治会会長等と連携を強化しお互いの機能を生かす事業展開を目指した。
- 移動交番に協力していただき、「電話de詐欺」等の防犯情報の提供を行ってもらった。
- ボディケアスクールの担当が、10月コースより理学療法士に変更され、理学療法士による個別相談数の増加につながった。

花見川いきいき
センター

B

- 花見川団地自治会、住宅自治会をはじめ、地域の図書館、保育所、小・中学校にポスター掲示やチラシ配架などの協力を依頼し広報に努めた。
- 自主事業としてボディケアスクールを担当している理学療法士を撮影したDVD（ミニボディケアスクール）を上映しボディケアスクールに落選、補欠の方に参加の機会を提供した。また、ボディケアスクール未体験の方にも参加していただくよう促し、ボディケアスクールを知っていただく機会とした。
- シナプソロジーインストラクター普及養成コースを受講した職員による「ハッスル!!脳トレ教室」を開催し、認知機能の向上、同じ悩みを持っている利用者同士の交流の場とした。
- 出張教室の依頼を受け、ふれあい・いきいきサロンや自治会館に指導員や看護師を派遣し介護予防体操、脳トレ体操、血管、骨密度等の健康測定や健康講話等を実施し、地域活動の一助を担った。
- 地域交流として行ったいきいきセンターフェスティバルでは、展示や学習発表を通して同好会活動等アピールし会員増加を支援した。近隣の花見川中学校吹奏楽部や明治安田生命と協働し、演奏会やベジチェック（野菜摂取量測定）等を実施した。
- 世代間交流はハーバリウム作成等のワークショップや、小学校の放課後クラブにてボッチャ体験を開催し、地域の小学生との交流を図った。
- 利用者交流支援として、七夕とクリスマス時期に管弦楽コンサートを開催した。その他落語観賞会や映画鑑賞会を開催することにより施設の広報に努めた。
- あんしんケアセンター花見川と連携し、介護保険サービス利用の講話や健康フェスティバルでの相談会を開催した。
- ツイッターを活用し、事業案内、活動報告を随時配信した。要望に応じて登録を支援し、利用者が情報を得る機会を増加させた。

さつきが丘
いきいきセンター

B

- さつきが丘公民館と連携し、近隣自治会14団体へ毎月のいきいきだよりを回覧し新規利用者獲得に繋げた。また、ホームページやツイッターを活用し、広報に努めた。
- 高齢者講演会は、アンケート結果を参考に創作や歴史、麻雀等幅広い興味に合わせたテーマで設定した。教養娯楽系を4回、健康運動系を10回、生活情報系を7回の計21回開催した。
- 世代間交流として毎年定期的実施していた保育所との交流を再開した。感染予防に配慮し戸外でできるモルックを行い、園児と高齢者の交流を深めた。
- 利用者交流支援として、弦楽コンサート、寄席を実施した。さつきが丘公民館と共催したクリスマスコンサートは、ちば生涯学習センターと連携しYouTube配信を行った。
- いきいきセンターフェスティバルでは学習発表会や作品展示会を実施した他、近隣のさつきが丘中学校吹奏楽部やボランティア団体による余暇お楽しみ会、ポッチャ体験会を実施した。
- 自主事業としてボディケアスクールを担当している理学療法士を撮影したDVD（ミニボディケアスクール）を上映し、ボディケアスクールに落選、補欠の方に参加の機会を提供した。また、ボディケアスクールが未体験の方にも参加していただくよう促し、ボディケアスクールを知っていただく機会とした。
- シニアリーダー事務局と連携を図り、シニアリーダー体操の立ち上げを支援した。
- 自主事業として予約不要で参加できる脳トレや創作、ゲーム等が行える「広場シリーズ」を開催した。
- 利用者よりいただいたご意見をもとに健康麻雀の一般開放を行った。

- 新規取組として「脳トレ広場」と「シニアリーダー体操」を開始して、新たな利用者の確保含めて高齢者の介護予防における認知機能低下予防や身体機能低下予防などに繋がる取組の拡充を図った。また、稲毛区シニアリーダーの活動の場として協力を繋げられた。
- 新規取組としてあんしんケアセンター園生が主催する「地域交流サロン（アイリス）」の実施に際してセンターの会場提供、また、企画運営、募集等をあんしんケアセンター園生と連携協力して地域カフェスペースの提供に取り組んだ。
- 生きがい活動支援通所事業では、新規利用者の確保含めて多くの高齢者の方への介護予防に繋げるために、「生きがい活動支援通所事業体験会」で一般応募とは別に地域で高齢者と接点のある民生委員に参加・体験を行い、地域の高齢者に対して事業案内の協力と新規利用者の確保に繋げた。
- 同好会の活動支援では高齢者福祉講座終了後や同好会PR体験フェアを実施して新規同好会の立ち上げや新規会員の加入に繋げた。また、見学者やセンターフェスティバル等のイベントで積極的に活動紹介をして同好会活動の支援を図った。
- 男性の利用参加の向上を図るために、男性を対象にした「男のいきいき体操」を前年度同様に実施して、男性の利用参加の向上に繋げた。また、健康フェスティバルでは男性の参加率が前年度に対して若干増加となり、男性の利用率の向上に繋がった。
- コロナ禍の影響で中止していた世代間交流では、近隣のアフタースクールや小中学校の児童・生徒と生きがい活動利用者、同好会がボッチャやスカットボール、書初めなど通じて世代間交流の機会を図った。
- 社会福祉協議会区事務所と連携して社会福祉協議会地区部会のふれあい・いきいきサロン等へ出向き、体操やレクリエーション、健康測定を実施して普段、施設の利用がない地域の高齢者への健康づくりを図った。
- 区内で高齢化率が高いあやめ台団地と千草台団地のイベント開催時に出向き、健康測定会や健康体操等を行い、介護要望や健康づくりの啓発を図った。
- 支え合いの地域づくりを担うボランティア育成のために社会福祉協議会区事務所やあんしんケアセンター園生と連携して、「傾聴ボランティア講座」「認知症サポーター養成講座」を実施した。認知症サポーター養成講座の修了者にはステップアップ講座への案内、両講座の修了者がボランティア活動に繋がるよう社会福祉協議会区ボランティアセンターと連携を図った。
- 広報活動では、新規利用者の確保に向けて、地域の高齢者と接点がある民生委員に毎月のセンター情報を提供するために区内13地区の民生委員児童委員協議会に広報誌（いきいきだより）を配布して拡充を図った。
- あんしんケアセンターなど地域の関係機関との連携協力に引き続き取り組み、また、新たに生活支援コーディネーター第1層協議体主催の会議へ参加して生活支援コーディネーター第2層含めて情報共有や事業周知に努めました。

大宮
いきいきセンター

C

- 利用者に対して、新型コロナウイルス感染症に関する最新情報の提供を行い、不安の払拭に努めた。健康相談・生活相談の機会も利用し、質問・相談に対応した結果、生活相談は前年61件から68件、健康相談は前年1,239件から1,754件に増加した。
- 地域へのPRとして、広報紙いきいきだよりを大宮台近隣自治会回覧板へ毎月配布した。また、ツイッターによる開催行事の募集・活動報告など、施設の情報発信を行った。
- 出張体操として、地域活動グループ等に対し、体操教室の出張を行った。また、新規出張先として、あんしんケアセンター大宮台と連携し、認知症カフェを新たに開拓した。前年の35回、673人から41回、935人へ増加した。
- 世代間交流は、長く実施できなかった大宮小学校児童との交流を、令和5年2月から3年ぶりに再開した。
- 大宮小学校評議員会に出席し、大宮台保育所、大宮公民館、町内自治会等と地域の情報交換を行うとともに、センターの事業紹介を行った。
- 関係機関との連携として、若葉区内あんしんケアセンター、若葉区保健福祉センター高齢支援班、社会福祉協議会区事務所等、地域の高齢者支援に関わる機関との地域ケア会議に参加し、地域高齢者支援に関する事例検討や情報交換を行った。
- あんしんケアセンター大宮台との連携として、千葉市生活支援コーディネーター地域連絡会を開催し、地域の課題やお互いが持ち合わせている地域情報の共有を行った。
- 新規事業として、若葉区の健康づくりプロジェクトのひとつ「若葉区ラジオ体操区」の普及啓発に参加し、センター利用者とラジオ体操を開始した。方言バージョンのラジオ体操も取り入れ、センターでのラジオ体操の定着に努めた。
- 社会福祉協議会区事務所と連携して、みつわ台公民館にて「出張体操・測定会」を実施した。
- 近隣養成校への協力として、看護実習生の受け入れを引き続き行い、地域で生活する高齢者の健康維持・加齢に伴う諸問題を学ぶ機会を設けた。

- 新型コロナウイルス感染症の影響による様々な制限下であっても、十分な感染症対策の実施とともに来館者に対し、最新情報を館内掲示等で提供することにより、安心・安全な利用の理解に努めた。更に健康相談・生活相談の機会を利用し、不安な点について詳細に対応した。これにより利用者数とともに相談件数も増加し、生活相談は前年63件から91件、健康相談は前年1,109件から1,260件に増加した。
- 高齢者講演会は、事業計画を上回る8回を実施した。コロナ禍により身体を動かす機会が減り、体力低下や認知機能低下を心配する方、生活のいろいろである趣味や笑いを求める方、将来への備えを希望する方、それぞれに対応するため、体操系・脳トレ系・寄席・終活セミナー等、様々な講演会を実施した。
- あんしんケアセンター都賀・桜木と連携して、介護保険についての講演会や出張相談会を開催した。また、体操同好会への活動支援を通して、双方に共通する利用者の支援に必要な情報共有を行い、地域の高齢者とその家族を含めた支援の連携を行った。
- 地域交流として、いきいきセンターフェスティバルを3年ぶりに開催し、作品展示・学習発表の他、フルート演奏会や生きがい活動支援通所事業見学会、あんしんケアセンター出張相談等のイベントを行い、利用者と地域住民との交流を図った。
- 世代間交流は、小学生・その親の世代・センター利用の高齢者の3世代交流を目指し、折り紙作成等の体験交流を4回実施した。
- 利用者交流支援として、「フルート演奏会」、「電子マリンバ・電子ピアノ演奏会」を開催し、共通の趣味を持つ利用者の交流機会を設けた。
- 関係機関との連携として、若葉区内あんしんケアセンター、若葉区保健福祉センター高齢支援班、社会福祉協議会区事務所等、地域の高齢者支援に関わる機関との地域ケア会議に参加し、地域高齢者支援に関する事例検討や情報交換を行った。
- 社会福祉協議会区事務所と連携して、小倉地区部会「ふれあい・いきいきサロン」に出張し、認知症予防トレーニングや看護師による健康相談を実施した。また、みつわ台公民館で「出張体操・測定会」として、骨密度測定・ストレッチ体操、看護師による健康相談を実施した。
- 利用者の「介護予防にもなり、利用者同士の仲間づくりにもなる体操の場が欲しい」との声を受け、ストレッチ・筋トレ等をDVDを見ながら楽しむ「都賀いきいき自主体操」を令和5年1月から10回実施した。
- 近隣養成校への協力として、看護実習生の受け入れを引き続き行い、地域で生活する高齢者の健康維持・加齢に伴う諸問題を学ぶ機会を設けた。

<p>越智 いきいきセンター</p>	<p>C</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● いきいきセンターフェスティバルは作品展と2つの記念講演会を実施した。期間は2日間であったが多くのの人に作品を目にさせていただく機会を増やせるよう展示は同月内実施した。 ● 介護予防や体操、座学等の講演会をシリーズ開催も含め15回実施した。 ● 千葉市生涯学習センター、越智公民館との協働でオンライン寄席を開催した。 ● 世代間交流「オリジナルマグカップ制作」と「バルーンアート」を開催しチラシ配布等の広報を行い、越智小学校児童とご父兄に参加いただき夏休みの思い出作りを楽しんでいただいた。 ● 見守りネットワーク会議土気に積極的に参加し、関係機関や民生委員と情報交換や共有をして、協力体制の強化に努めた。あんしんケアセンターには生きがい活動支援通所事業教養講座の講師として協力していただいたり、協働でふれあい・いきいきサロンに出向き、測定会や体操等を行った。 ● センター前の広場を活用して、生きがい活動支援通所事業時にグランドゴルフを実施した。また、公民館と協働し3年ぶりに「星の観察会」を開催した。 ● 地域カフェを初めて開催し参加された方への高齢者福祉講座・高齢者講演会、イベント情報を提供したり、プラザ・センターの業務説明を行い周知に努めた。 ● 年3回の健康測定会では緑区生活自立・仕事相談センターとも連携して、生活課題の相談窓口も併設して社会生活のニーズにも対応した。
<p>土気 いきいきセンター</p>	<p>C</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● いきいきセンターフェスティバルでは同館2階の地域活動支援センターと連携して合同作品展を開催した。 ● 体操等の介護予防、座学、創作等の講演会を計15回実施した。 ● 土気小学校1年生との世代間交流「昔の遊び」を、学校の体育館で行った。高齢者が指導役となり、いろいろな遊びを通して交流した。 ● 見守りネットワーク会議土気に積極的に参加し、関係機関や民生委員と情報交換や共有をして、協力体制の強化に努めた。あんしんケアセンターや千葉市老人クラブ連合会と協働でふれあい・いきいきサロンや老人クラブに出向き、測定会や体操等を行った。また公民館との共催事業を実施した。 ● プレ60歳、60歳代への第二の人生提案や計画の提供、新たな趣味を模索できる講座等の開催として、50歳以上を対象にした世代間交流を2回実施した。 ● 土気小学校、土気公民館、土気市民センターと協働して、九都県市合同防災訓練に参加した。 ● 衆議院選挙での期日前選挙、当日投票の会場として集会室及びロビーの貸し出しを行った。

真砂
いきいきセンター

C

- 大会会場として有名な幕張メッセが所在する区の特徴を生かした活動プログラムとしてeスポーツを導入し、健康ゲーム講習会として、楽しみながら健康の増進や認知機能の向上、心身の気分転換を図った。
- 市立高等特別支援学校と連携し、就労を目指すビルクリーニング班の生徒に清掃作業を通して働く力を育成する場を提供するとともに、高齢者との交流を図り、相互理解を深めた。
- 社会福祉協議会区事務所及び㈱URコミュニティと連携し、UR真砂第一団地でのラジオ体操の立ち上げ企画として血管年齢測定と健康講話を実施し、その後も継続してラジオ体操指導した。また、UR真砂団地内の掲示板に事業案内を掲示した。
- いきいき体操の内容を見直し、いす体操、筋力トレーニング、指体操、コグニサイズなどバリエーションを増やした。
- 社会福祉協議会区事務所との連携を深め、社会福祉協議会地区部会活動支援メニューのチラシ配布や地区部会従事者研修会での体験会、打瀬健康フェスティバル、コグニサイズの出張支援は美浜いきいきプラザと共に開催した。
- 施設にあるグラウンドゴルフの道具を定期的に貸し出し、近隣の老人会の運動機会確保の支援を行った。

(2) 市による評価
ア 全体

総括 評価	B	所見	<p>概ね市の求める水準に則した、良好な管理運営が行われている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 利用者アンケートによる満足度は市の定める数値目標を上回った。 ● 管理運営の履行状況は、高齢者福祉講座（スマホ教室や脳トレ等）や高齢者講演会（体操やSDGs等）などの各種事業を市の定める実施回数以上実施するなど、市の定める水準を上回る管理運営が行われた。 ● 新型コロナウイルスの感染拡大への対策として、各部屋の消毒や利用者の体温測定などを実施し、感染防止に努めた。
----------	----------	----	--

	利用者数	満足度	管理運営の履行状況								管理経費縮減	総合	A又はBの割合	D又はEの割合
			1 市民の平等 利用の確保・施設の 適正管理	2 施設管理能力(1)	2 施設管理能力(2)	3 施設の効用の 発揮(1)	3 施設の効用の 発揮(2)	3 施設の効用の 発揮(3)	4 その他					
市による評価	—	C	C	C	C	C	C	C	B	C	B	B	22%	0%
中央いきいきプラザ	—	C	C	C	C	C	C	C	B	C	-	C	13%	0%
花見川いきいきプラザ	—	C	C	C	C	C	C	C	B	C	-	C	13%	0%
稲毛いきいきプラザ	—	C	C	C	C	C	C	C	B	C	-	C	13%	0%
若葉いきいきプラザ	—	C	C	C	C	C	C	C	B	C	-	C	13%	0%
緑いきいきプラザ	—	C	C	C	C	C	C	C	B	C	-	C	13%	0%
美浜いきいきプラザ	—	C	C	C	C	C	B	C	B	C	-	B	25%	0%
蘇我いきいきセンター	—	C	C	C	C	C	B	C	B	C	-	B	25%	0%
花見川いきいきセンター	—	C	C	C	C	C	B	C	B	C	-	B	25%	0%
さつきが丘いきいきセンター	—	B	C	C	C	C	B	C	B	C	-	B	38%	0%
あやめ台いきいきセンター	—	B	C	C	C	C	B	C	B	C	-	B	38%	0%
大宮いきいきセンター	—	B	C	C	C	C	B	C	B	C	-	B	38%	0%
都賀いきいきセンター	—	C	C	C	C	C	B	C	B	C	-	B	25%	0%
越智いきいきセンター	—	B	C	C	C	C	B	C	B	C	-	B	38%	0%
土気いきいきセンター	—	C	C	C	C	C	B	C	B	C	-	B	25%	0%
真砂いきいきセンター	—	C	C	C	C	C	B	C	B	C	-	B	25%	0%

施設名	総括評価	所見
中央 いきいきプラザ	C	<ul style="list-style-type: none"> ● 緊急の際に病院等に提出する個人情報使用同意を取っている。 ● 職員全員が普通救命講習を受講している。 ● 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各部屋の消毒や利用者の体温測定を実施している。 ● 地域新聞にフェスティバルを掲載するなど広報に努めている。 ● ご意見箱を設置したり事業ごとにアンケートを実施したりするなど、利用者の意見を広く募っている。 ● 生きがい活動の前に健康相談を実施しており、全プラザ・センターの中で利用人数が一番多い。 ● 理学療法士による個別相談を実施している。 ● 高齢者講演会の実施を年間で10回開催しており、管理運営の基準（年2回以上）を上回る。 ● 同好会の活動支援として、希望者のコーディネートを行い、参加を支援している。 ● 松ヶ丘地区地域運営委員会が主催する円卓会議に参加している。41団体が参加し、各施設の実情や現状の問題点などを会議し、施設間のつながりを保っている。 ● 中央区健康課が主催しアリオ蘇我で開催した健康増進啓発イベントに参加し、イベントの進行スタッフや血管年齢測定を行うなど地域とよく連携している。 ● 職員全員が3年以上普通救命講習を受講していない。 ● 施設間で貸し出し可能な備品のリストがH29.7.27から更新されていない。活用もしていない。 ● 備品の購入を市に報告していない。
花見川 いきいきプラザ	C	<ul style="list-style-type: none"> ● 職員全員が普通救命講習を受講している。 ● 緊急の際に病院等に提出する個人情報使用同意を取っている。 ● 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各部屋の消毒や利用者の体温測定を実施している。 ● Twitterを活用し広報に努めている。Twitterアクセスも支援している。高齢者福祉講座で折り込みチラシも実施している。 ● ご意見箱を設置したり事業ごとにアンケートを実施したりするなど、管理運営の基準を超えて利用者の意見を広く募っている。 ● 理学療法士による個別相談を実施している。 ● 改修に伴う休館がありつつも、高齢者講演会を26回開催しており、管理運営の基準を大幅に上回る。 ● 同好会の活動支援として、希望者のコーディネートや体験会を実施している。ポッチャの講座から同好会設立を実現。会員数の減少した同好会に講師をしてもらい、同好会参加者を募った。 ● 対象期間中に、世代間交流を1回、地域交流を1回開催。管理運営の基準を上回る。 ● ゲートボール場を演奏会の会場として使用するなど多様な方法で活用している。 ● あんしんケアセンターと協働し毎月の相談会を実施している。 ● 施設間で貸し出し可能な備品のリストがH29.7.27から更新されていない。活用もしていない。 ● 備品の購入を市に報告していない。

<p>稲毛 いきいきプラザ</p>	<p>C</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●職員全員が普通救命講習を受講している。 ●緊急の際に病院等に提出する個人情報使用同意を取っている。 ●新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各部屋の消毒や利用者の体温測定を実施している。 ●いきいきだよりの配布先を増やし、民児協や公民館等に幅広く配布。地域新聞や稲毛新聞に掲載するなど広報に努めている。 ●ご意見箱を設置したり事業ごとにアンケートを実施したりするなど、利用者の意見を広く募っている。 ●利用者に積極的に声かけを実施し、生活相談の件数が他施設よりも多い。 ●理学療法士による個別相談を実施している。 ●高齢者講演会を13回開催しており、管理運営の基準を上回る。休日開催も3回あり。 ●同好会の活動支援として、希望者のコーディネートや体験会を実施している。同好会の立ち上げも支援しており、72→79団体に増加している。 ●世代間交流を4回、地域交流を1回開催。また、同好会の発表会を撮影し上映を計画するなど、感染症対策が必要な中、創意工夫して事業を行っている。 ●新型コロナウイルスの感染拡大への対策として、定員制の導入や各設備の消毒を実施している。 ●ゲートボール場を卓球やポッチャの会場として活用し、特に利用者が多い。 ●地域活性会議、地区部会、地域ケア会議に参加し連携している。稲毛区民祭りに参加し、脳年齢測定会を実施。地域活性会議、地域ケア会議にも参加し、近隣施設との連携を深めている。出張体操を10回開催している。地区部会にて血管年齢測定会を実施し、プラザのPRを実施。小中台西祭りでも脳年齢測定会を実施。 ●施設間で貸し出し可能な備品のリストがH29.7.27から更新されていない。活用もしていない。 ●備品の購入を市に報告していない。
<p>若葉 いきいきプラザ</p>	<p>C</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●職員全員が普通救命講習を受講している。 ●緊急の際に病院等に提出する個人情報使用同意を取っている。 ●新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各部屋の消毒や利用者の体温測定を実施している。 ●地域ケア会議に毎月参加し、講座等を広報している。民生委員会の理事会・あんしんケア会議、公民館、社協の事務所でも配布。地域新聞にフェス、講演会を掲載。 ●ご意見箱を設置したり事業ごとにアンケートを実施したりするなど、管理運営の基準を超えて利用者の意見を広く募っている。 ●理学療法士による個別相談を実施している。 ●多様な講座を開催しており、他施設より講座数が多い。 ●講演会を17回実施しており管理運営の基準を上回る。内7回土日であり、休日開催も多い。 ●同好会の活動支援として、希望者のコーディネートや体験会を実施している。同好会一覧を作成し若葉社協と連携しスーパーや公民館に置いている。 ●世代間交流を3回実施し、管理運営基準を上回る。 ●地域ケア会議に毎月参加。民生委員会の理事会・あんしんケア会議にも参加。 ●施設間で貸し出し可能な備品のリストがH29.7.27から更新されていない。活用もしていない。 ●事故報告書が速やかに提出されなかった。 ●備品の購入を市に報告していない。

<p>緑 いきいきプラザ</p>	<p>C</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 職員全員が普通救命講習を受講している。 ● 緊急の際に病院等に提出する個人情報使用同意を取っている。 ● 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各部屋の消毒や利用者の体温測定を実施している。 ● Twitterを活用し広報を実施。地域ケア連携会議に毎月参加し、広報している。 ● 理学療法士による個別相談を実施している。 ● 多様な講座を開催しており、他施設より延開講数が多い。 ● 高齢者講演会を12回実施しており、管理運営の基準を上回る。土日開催も多い。おゆみ野ふれあい館での出張講演会を随時開催している。 ● 同好会の活動支援として、希望者のコーディネートを実施している。同好会に講座の講師を依頼しており、活動を広めるきっかけを作っている。世代間交流で同好会の教室を開催し、新規会員を獲得している。 ● 世代間交流を対象期間中に10回実施しており、管理運営の基準を上回る。卓球大会は誉田東小に広報してもらった。 ● 地域ケア会議に毎月参加している。 ● 施設間で貸し出し可能な備品のリストがH29.7.27から更新されていない。活用もしていない。 ● ご意見箱が見えづらい向きで設置されており、ご意見箱に1件も意見が入っていない。 ● 備品の購入を市に報告していない。
<p>美浜 いきいきプラザ</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 職員全員が普通救命講習を受講している。 ● 緊急の際に病院等に提出する個人情報使用同意を取っている。 ● 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各部屋の消毒や利用者の体温測定を実施している。 ● Twitterを活用し広報を実施。高洲・高浜地区部会と連携し、いきいきだよりを10,800世帯の回覧板に載せてもらうなど広く広報に努めている。 ● ご意見箱を設置したり事業ごとにアンケートを実施したりするなど、管理運営の基準を超えて利用者の意見を広く募っている。 ● 利用者に積極的に声かけを実施し、生活相談の件数が他施設よりも多い。毎月出張講和で出張健康相談も多い。出張測定会も多い。 ● 理学療法士による個別相談を実施している。 ● 高齢者講演会を15回実施しており、管理運営の基準を上回る。 ● 同好会の活動支援として、希望者のコーディネートや体験会を実施している。ポッチャの講座から同好会設立を実現。会員数の減少した同好会に講師をしてもらい、同好会参加者を募った。 ● 地域交流を2回、世代間交流を3回開催している。 ● 世代間交流を期間内に1回実施。年間で2回実施予定。美浜区社協事務所とあんしんケアセンター磯辺と連携し地域自助グループで講演会。自主的体操グループの立ち上げにつなげた。 ● URと連携し、UR居住者向けのプラザ利用案内動画を作成。URのふれあい広場等で放映されている。地域ケア会議に参加。 ● 施設間で貸し出し可能な備品のリストがH29.7.27から更新されていない。活用もしていない。 ● 備品の購入を市に報告していない。

<p>蘇我 いきいきセンター</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●職員全員が普通救命講習を受講している。 ●緊急の際に病院等に提出する個人情報使用同意書を取っている。 ●新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各部屋の消毒や利用者の体温測定を実施している。 ●自治会や民生委員会議で講演会等の広報を実施した。 ●ご意見箱を設置したり事業ごとにアンケートを実施したりするなど、利用者の意見を広く募っている。 ●理学療法士による個別相談を実施している。 ●高齢者講演会を16回実施しており、管理運営の基準（年2回以上）を大幅に上回る。 ●同好会の活動支援として、希望者のコーディネートや体験会を実施している。 ●こどもルーム、子育てリラックス館、小学校などと連携し、他施設よりも世代間交流が多い。 ●7月にコミュニティセンターと健康フェスティバルを開催、1月にアリオ蘇我にて健康課との健康づくりイベントを開催。 ●備品の購入を市に報告していない。
<p>花見川 いきいきセンター</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●職員全員が普通救命講習を受講している。 ●施設間で貸し出し可能な備品のリストを作成している。 ●新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各部屋の消毒や利用者の体温測定を実施している。 ●Twitterを活用し広報を実施。 ●ご意見箱を設置したり事業ごとにアンケートを実施したりするなど、管理運営の基準を超えて利用者の意見を広く募っている。 ●看護師が特に親身に相談に乗ることにより、他施設より相談件数が多い。 ●理学療法士による個別相談を実施している。 ●高齢者講演会を11回開催しており、管理運営の基準（年2回以上）を大幅に上回る。 ●同好会の活動支援として、希望者のコーディネートを行い、新規に2団体立ち上がるなど活動を支援している。 ●近隣自治会等への広報により、他施設よりも利用者が多い。 ●6月、1月にあんしんケアセンター花見川と健康フェスティバル開催、健康課と連携し講演会等を実施するなど連携に努めている。 ●備品の購入を市に報告していない。

<p>さつきが丘 いきいきセンター</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●職員全員が普通救命講習を受講している。 ●緊急の際に病院等に提出する個人情報使用同意を取っている。 ●新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各部屋の消毒や利用者の体温測定を実施している。 ●公民館と連携し、自治会へ回覧を依頼することで、新規利用者を増加させた。 ●ご意見箱を設置したり事業ごとにアンケートを実施したりするなど、管理運営の基準を超えて利用者の意見を広く募っている。 ●理学療法士による個別相談を実施している。 ●高齢者講演会の実施を21回開催しており、管理運営の基準（年2回以上）を上回る。 ●希望者のコーディネートを行い、参加を支援している。 ●さつきが丘東小学校、さつきが丘第二保育園と世代間交流。消費生活センターの講演。社協の地区部会との体操の実施、広報協力。クリスマスコンサートを公民館と開催し、リバイバル配信するなど、近隣施設と多様に連携している。 ●備品の購入を市に報告していない。
<p>あやめ台 いきいきセンター</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●職員全員が普通救命講習を受講している。 ●緊急の際に病院等に提出する個人情報使用同意を取っている。 ●新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各部屋の消毒や利用者の体温測定を実施している。 ●稲毛区内の自治会や公共施設にプラザと共同でチラシを配布するなど、広報に努めている。 ●ご意見箱を設置したり事業ごとにアンケートを実施したりするなど、管理運営の基準を超えて利用者の意見を広く募っている。 ●理学療法士による個別相談を実施している。 ●高齢者講演会の実施を16回開催しており、管理運営の基準（年2回以上）を上回る。 ●同好会の活動支援として、希望者のコーディネートを行い、参加を支援している。 ●地区部会、あんしんケアセンターといきいきサロン、ボランティア養成講座等を行っている。アフタースクールと共同することで世代間交流を実施している。 ●備品の購入を市に報告していない。

<p>大宮 いきいきセンター</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●職員全員が普通救命講習を受講している。 ●緊急の際に病院等に提出する個人情報使用同意を取っている。 ●新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各部屋の消毒や利用者の体温測定を実施している。 ●地域新聞にセンターフェスティバルを掲載。いきいきだよりを大宮自治会、北大宮自治会に届けているなど広報に努めている。 ●ご意見箱を設置したり事業ごとにアンケートを実施したりするなど、管理運営の基準を超えて利用者の意見を広く募っている。 ●理学療法士による個別相談を実施している。 ●高齢者講演会の実施を年間で5回開催しており、管理運営の基準（年2回以上）を上回る。 ●希望者のコーディネートを行い、参加を支援。コロナで休止していたハーモニカの同好会を復活させた。 ●学校との世代間交流が2月から再開。あんしんケアセンターと年一で会議。あんしんケアセンターと連携し地域カフェを実施している。健康課の講座もセンターで開催するなど多方面で連携に努めている。 ●備品の購入を市に報告していない。
<p>都賀 いきいきセンター</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●職員全員が普通救命講習を受講している。 ●緊急の際に病院等に提出する個人情報使用同意を取っている。 ●新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各部屋の消毒や利用者の体温測定を実施している。 ●地域新聞にコミュニティ祭りと一緒に健康チェックの記事を掲載。コミュニティセンターにも掲示してもらっている。自治会への出張時にも広報している。 ●ご意見箱を設置したり事業ごとにアンケートを実施したりするなど、利用者の意見を広く募っている。 ●理学療法士による個別相談を実施。 ●高齢者講演会を15回開催しており、管理運営の基準（年2回以上）を上回る。 ●同好会の活動支援として、希望者のコーディネートを行い、参加を支援。 ●コミュニティセンターのイベントと合わせて健康チェックを実施。あんしんケアセンターの出張相談会を実施。地域ケア会議にも毎月参加。 ●備品の購入を市に報告していない。

<p>越智 いきいきセンター</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●職員全員が普通救命講習を受講している。 ●緊急の際に病院等に提出する個人情報使用同意を取っている。 ●新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各部屋の消毒や利用者の体温測定を実施している。 ●各月のイベントをチラシにして利用者に配布。公民館の自治会ボックスを利用し配布するとともにあんしんケアセンターにも周知している。 ●ご意見箱を設置したり事業ごとにアンケートを実施したりするなど、利用者の意見を広く募っている。 ●理学療法士による個別相談を実施している。 ●高齢者講演会の実施を年間で15回開催しており、管理運営の基準（年2回以上）を上回る。 ●同好会の活動支援として、希望者のコーディネートを行い、参加を支援している。 ●あんしんケアセンターと見守り会議や出張体操で連携。公民館とイベントの共同。健康課ともセミナーや相談会を実施するなど連携に努めている。 ●備品の購入を市に報告していない。
<p>土気 いきいきセンター</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●職員全員が普通救命講習を受講している。 ●緊急の際に病院等に提出する個人情報使用同意を取っている。 ●新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各部屋の消毒や利用者の体温測定を実施している。 ●いきいきセンターだよりを土気中学校区の自治会に毎月200部配布し、回覧板に挟んでもらっている。公民館、あんしんケアにも配布し広報に努めている。 ●ご意見箱を設置したり事業ごとにアンケートを実施したりするなど、利用者の意見を広く募っている。 ●理学療法士による個別相談を実施している。 ●高齢者講演会の実施を15回開催しており、管理運営の基準（年2回以上）を上回る。 ●同好会の活動支援として、希望者のコーディネートを行い、参加を支援している。 ●公民館と落語会を共催。学校と毎年世代間交流、あんしんといきいきサロンの出張体操、見守り安心会議に出席。地域活動支援センターとフェスで作品展示。 ●備品の購入を市に報告していない。

<p>真砂 いきいきセンター</p>	<p>B</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 職員全員が普通救命講習を受講している。 ● 緊急の際に病院等に提出する個人情報使用同意を取っている。 ● 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各部屋の消毒や利用者の体温測定を実施している。 ● UR真砂の掲示板にいきいきだよりを掲載するなど、広報に努めている。 ● ご意見箱を設置したり事業ごとにアンケートを実施したりするなど、利用者の意見を広く募っている。 ● 理学療法士による個別相談を実施している。 ● 高齢者講演会を10回開催しており、管理運営の基準（年2回以上）を上回る。 ● 同好会の活動支援として、希望者のコーディネートをを行い、参加を支援している。 ● 健康フェスティバル、測定会を実施。毎週木曜に真砂団地出張体操を実施。 ● 備品の購入を市に報告していない。
------------------------	-----------------	--

【評価の内容】

- A：市が指定管理者に求める水準等を大きく上回る、特に優れた管理運営が行われていた。
- B：市が指定管理者に求める水準を上回る、優れた管理運営が行われていた。
- C：概ね市が指定管理者に求める水準等に則した、良好な管理運営が行われていた。
- D：管理運営の一部において市が指定管理者に求める水準等に達しておらず、改善の余地のある管理運営が行われていた。
- E：管理運営全般において市が指定管理者に求める水準等に達しておらず、速やかな改善が求められる管理運営が行われていた。

(3) 保健福祉局指定管理者選定評価委員会の意見

- ・財務状況については、提出された財務諸表等の資料を確認した範囲では、倒産や撤退等のリスクは認められず、特段の問題はないと認められる。
- ・各施設が利用者拡大のため、それぞれ工夫して興味を引くプログラム等を取り入れており評価できる。
- ・管理運営については、概ね適切に管理が行われていると認められるが、次の事項に留意されたい。
- ① 実習費とコピー料について、自主事業ではなく、指定管理業務に取り込むことをご検討いただきたい。
- ② 拠点間繰入金について、千葉市社会福祉協議会全体の収支と各施設の収支の調整がきちんと行われているかご検証いただきたい。
- ③ 「施設利用者数」について、総数だけでなく、館内活動の利用者と館外や出張サービス等の利用者の内訳を記載することもご検討いただきたい。
- ④ SNS等の新しい媒体での広報手段の拡充も含め、引き続き新規利用者の拡大ができるような工夫に努めていただきたい。
- ⑤ 認知症の当事者の方へのアプローチ方法についてご検討いただきたい。